

**EDF**The Education for Development Foundation
มูลนิธิเพื่อการพัฒนาการศึกษาEDF WAS AWARDED
"NGO OF THE YEAR 2012"

ダルニーフォーラム

第十八号

2015年9月

www.edfthai.org/jp

2015年奨学生になった2人の家庭訪問レポート



タナゴーン・ナラボン(フー)と祖母



サッカリン・ソムチャイ(ケーアー)

あと少しで叶い そうな夢

私たちEDFのスタッフは、2015年8月上旬、奨学金を受け取った子供たちの生活の様子を調査するために、タイ東北地方を訪れました。そこでタナゴーン・ナラボン(Thanakorn Narapong)、ニックネームはフー(Huu)という13歳の男子生徒と、サッカリン・ソムチャイ(Sakkarin Somjai)、ニックネームは、ケーアー(Ke-Are)という同じく13歳の男子生徒に会うことができました。このふたりは、2015年度の新しい奨学生で、今年度は7,628人いる奨学生のうちのふたりです。現在フーとケーアーは、ブリラム県ノンディンデン郡ラムナンローン村にあるバーンラムナンローン中学校の1年生として、勉強しています。

ふたりには、家庭の貧困という問題がありますが、それだけでなく、両親との別居により、両親からの愛情や温かさに触れられないという状況にも、置

かれています。フーの両親は、貧困から抜け出すために悪戦苦闘しており、遠く離れた南部のスラターニー県まで行って、建設工事現場で働いています。そのためフーは置いて行かれ、祖母と一緒に暮らしていますが、祖母は高齢であるだけでなく、骨や関節の病気を患っており、思うように歩くことができないため、働くこともできません。祖母とフーのふたりは、祖母に支給される1か月あたり800バーツの老人手当で生活しています。時々両親から1か月に千バーツか2千バーツが送られて来ることもあります。その他の収入は一切ありません。

フーには、兄がひとりいます。兄は、中学校までしか勉強できず、建設工事の仕事をしなければなりません。時には、両親の働いているスラターニー県へ手伝いに行くこともあります。フーは、勉強以外にもサッカーが大好きで、県立のスポーツ専門高校へ進学するという夢があります。将来プロサッカー選手になるか、サッカーのコーチになりたいからです。そうすれば、両親や家族を養えるだけの収入を得られるし、有名になることもできるでしょう。

一方ケーアーは、家計の支出を軽減

するために、両親にムエタイのジムを経営している叔父の所へ送られて、今は叔父と一緒に暮らしています。日雇い仕事から得る両親の収入は、不安定で不確実だからです。ケーアーは、叔父とムエタイの練習をするようになりました。そして臨時収入を得るために、いろいろな試合に出場しています。臨時収入は、生活費にあてたり、学校で使うお昼代にしたり、残れば両親に送ったりしています。

ケーアーは、プロのムエタイ選手になるという夢があります。叔父のジムのいろいろな仕事を手伝うだけでなく、ムエタイの練習もしています。毎日、朝は5時に起きて、4-5キロをランニングします。その後サンドバッグを打つ練習をします。それから、シャワーを浴びて服を着替え、学校へ歩いて通学します。夕方の下校後も同様です。急いで家に帰って、宿題をします。そしてムエタイの練習を夜までします。これらは、この年代の子供にとって、決して簡単なことではありません。しかし、ケーアーは、夢を実現するために、頑張ってムエタイの練習をすると同時に、一生懸命勉強もしています。

「裏側のページへ」



ケーアーにサンドバックを蹴る練習を見せてもらいました。



フーくとサッカーチームのメンバー

フーとケーアーは、奨学金を寄付してくれた支援者に対して、心から感謝の言葉を述べています。

家族が負担すべき教育費の一部を、支援者が負担してくれたことで、彼らは勉強する機会が持てました。そのことを感謝するとともに、もらった奨学金は、勉強に最も役立つように使うこと、そして、夢を実現するために一生懸命勉強することを約束しました。

EDFは、奨学金を寄付して下さった支援者の皆様に、心から感謝いたします。いただいた支援金は、貧困にあえぐ子供たちが、それぞれの夢を実現するための大きなきっかけとなる、とても大切なものです。

本年度は7,628人の学生が奨学金の提供を受けることができました。



今回は、本年5月に終了しました2015年度の結果についてご報告します。

2015年度のEDFの募金活動は、お陰さまで昨年より実績が少し向上しました。2014年に発生したタイの政局の混乱は、一応の安定を取り戻し、通常の生活が戻り、世界全体の不景気傾向の中にもかかわらず当基金から在タイ日系企業の皆様への案内書等にも応えていただき、また皆様からご友人の方々へのご紹介等のご協力のお陰でこのような成果を得ることができました。この場を借りまして皆様のご支援に心からお礼申し上げます。

2015年度の募金活動の報告の実績は右記のようになります。

期間：2014年6月より2015年5月まで奨学金を受ける中学生合計7,628人(昨年度6,392人)。そのうちのEタイプという金額を指定しない奨学金と募金箱へのご寄付からは200人(昨年度145人)の子どもたちに奨学金を提供することができました。経済状況が厳しい中、このような形態での募金額が昨年度を上回って多くの子どもたちに支援を届けることができました。

現在EDFでは支援者の皆様に2015年度の奨学生証書などを郵送しているところです。お手元に届きましたら、写真でご自分の支援しておられる子どもたちの成長ぶりをご覧下さい。また、2015年6月より2016年度の募金活動を既にスタートしています。引き続き皆様の暖かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

ニュース・イベント

タイヤマハモーター株式会社7年間の奨学金ご寄付



2015年6月23日、最高財務責任者の稲村撤哉氏(写真中央)、管理部のポンサトン・アモンコンチャイ氏(写真左から2人目)により、120,000バツの奨学金をご寄付頂きました。今回のご支援は7年目となり(2009年から2015年まで)、これまで累計約140名の子

供達が、同社による奨学金支援を受けることが出来たこととなります。

人材紹介会社3社よりパンフレットと募金箱設置のご協力

今年度は下記の人材紹介会社により、受付カウンターにEDFのパンフレットと募金箱を設置していただきました。

- Adecco Thailand
- FDI Recruitment (Thailand) Co., Ltd.
- TJ Prannarai Communication Co., Ltd.

*企業・団体の皆様は社内にパンフレットと募金箱設置のご希望があれば、public@edfthai.org ご連絡下さい。

